

陸水域における寄生生物の分類・生態学的研究

関連するSDGsの国際目標



環境科学部 環境生態学科 教授 浦部 美佐子

研究分野 : 陸水生物学、寄生虫学

琵琶湖とその周辺河川を中心に、魚類、貝類、両生爬虫類などにみられる寄生虫の分類・生態学的研究をしています。寄生虫は複雑な生活史をもち、生態系と深い繋がりががあります。また、まだ研究があまり進んでおらず、新種発見や生活史の解明といった新発見が多いに期待できる生物でもあります。また、外来無脊椎動物（貝類や寄生生物）の研究も行っております。滋賀河川や琵琶湖沿岸域の生態系の保全や生物相などに関してアドバイスすることが可能で、滋賀県の公共事業評価監視委員会、環境影響調査審査会等で水生生物の専門家としての委員を務めた経験があります。

■淡水生物の寄生虫の分類および生活史研究

・未知のことが多い淡水の魚貝類、両生爬虫類等の寄生虫（吸虫、線虫など）の分類および生活史の研究を進め、琵琶湖の生物多様性の再評価を行っています。



滋賀県産コイから発見されたコイフタゴムシ

■外来貝類・外来寄生虫の生態研究

・外来貝類や寄生虫の防除のための基礎研究として、その生態について解明をしています。物流の発達につれて淡水生物の外来種が多くみられるようになってきました。それらが在来種にどのような影響を与えるか、また防除の手法や必要性に関する研究を行っています。



特定外来生物カワヒバリガイ



外来寄生虫（ナマズ腹口吸虫）によって引き起こされた魚病